

日 時 平成28年11月11日(金)
10:50~12:20

1 単元名「グループで連携して配膳をしよう」

2 単元について

給食の配膳では、決められた時間内に高等部全生徒と全教員の給食を盛り付ける。そこでは、食べ物を扱う上での衛生管理、数や位置を間違えずに配膳するなどの正確さ、時間内に配膳するための作業スピードが求められる。衛生面では、爪を短くする、マスク・白衣・帽子の着用、帽子の中に髪を入れる、衣服のゴミを取るなど身だしなみを整えなければならない。また、配膳前の限られた時間内で、身だしなみを整えていく意識も高めなければならない。正確さでは、作業マニュアルで手順や流れを確認しながらミスなく配膳することが大切となる。正確さとともにスピードも不可欠であり、時間内に作業を終え、高等部生徒の給食に間に合わせることは重要である。配膳作業を通して、生徒たちは作業の正確性、効率化といった作業の質の向上を目指すことができるとともに、時間内に正確に配膳できた達成感も味わうことができる。1学期の配膳では、衛生管理、正確さ、作業スピードといった作業能力向上に重点的に取り組んできた。そのために、配膳の様子を動画を見て、自分の動きを客観的に振り返り、どのようにしたらいいのかを教師とともに考え、改善することもできた。2学期からは、グループメンバー間で報告、連絡などのやりとりをし、作業マニュアルや周囲の動きを見ながら自分の動きを考えたり、仲間と連携したりする力を高めていくことをねらいとして、本単元を設定した。

流通班には、高等部単一障がい学級に在籍する2、3年生職業コース、男子5名、女子5名が所属している。生徒のほとんどが一般企業への就労を目標にしている。作業態度は、どの生徒も真面目で、指示を素直に聞き、最後までやり遂げることができる。しかし、配膳中困ったことや分からないことが起こったり、自分の仕事が終わったりした時、どうしていいのか分からずウロウロしてしまったり、自分で考えようとせずにすぐに教師へ指示を仰いだりする生徒が少なくない。また、声かけはできるが、相手に伝える意識が低く、結果として相手につたわらずに作業が重複してしまうことがある。この状況ではグループで連携し作業をすることは難しく、教師の助言や指示が必要となっている。今回の授業の対象生徒ABCについて、本校で作成した5つの力(別紙資料1)と行動観察より長所や課題を分析した。生徒Aは、困ったことや分からないことがあるととまどい、作業が止まってしまう。また、声も小さく、相手を意識した報告をすることができない。生徒Bは、自分の作業が終わると周りが作業している状況に気づかず、メンバーを手伝ったり自分で作業を探したりするなどの自発的な行動やグループで連携しようとする姿があまり見られない。生徒Cは、配膳作業を正確にスピーディーに行うことはできるが、リーダーとして全体を把握することが難しく、メンバーに的確な指示がだせない。

以上のことから指導にあたっては、教師がなるべく介入せず、生徒自らが考え、声をかけ合い、話し合いながら進められるようにしていきたい。そのために、準備物、配膳の流れ、配膳後のチェック方法などのマニュアルを視覚的に提示していく。始めのミーティングでは、グループリーダーが中心となり、作業担当、留意点、目標などを確認する時間を設ける。また、何のために報告するのかを確認し、全員に意識させたい。さらに、声の大きさ、視線、相手に伝わったかどうかの確認など、報告ポイントを提示する。配膳中どう動いてよいか分からない生徒に対しては、その場から離れさせ、場の状況を客観的に見つめさせ、どう動けばよいか考えさせたり、選択肢を伝えたりして本人が考えて作業を進めていけるようにしたい。生徒Aについては、分からない時、困った時に確認する作業マニュアルを準備し、自分から行動できるようにしたい。報告ができていない場合は、報告ポイントを確認したり、助言をしたりして言い直しをさせて自主的に報告しようとする意識を高めさせたい。生徒Bは、教師は離れた場から状況を見守りながら、必要に応じて作業マニュアルを指し示し、自分で考えて動けるようにしていきたい。生徒Cは、場から離して教師と一緒に状況を客観的に見て考える場を設けていきたい。終わりのミーティングでは、リーダーを中心に振り返り、教師も適宜助言を行い、次の課題を見つけ、達成感や次時への意欲へ繋がるようにしていきたい。

3 単元目標

- リーダーを中心としながら、連携して準備、配膳、片付けをすることができる。
- 作業マニュアルや周囲の動きを見て自分から声かけをしたり、動いたりすることができる。

4 指導計画（38時間扱い）

第一次 給食の配膳を手順に従って正確にしよう（4時間）

第二次 グループ内で連携して配膳をしよう（本時19、20／26時間）

第三次 条件を変更した場面でも、グループ内で連携して配膳をしよう（8時間）

5 本時の学習

(1) 本時の目標

○相手に伝わる声で報告をすることができる。

○グループで連携して、正確に、時間内に配膳をすることができる。

生徒	本時の目標	個別の指導計画目標
A	○分からない時や困った時は作業マニュアルを確認したり、相手に伝わる声の大きさを報告をしたりして作業をすることができる。	・自分のしている作業が終わり、次に何をしたらいいか分からない時に、素早く指示を仰ぐことができる。
B	○自分の作業が終わったら作業マニュアルや周りの状況を見て、次にすることを考え、リーダーに「○○をします。」「○○を手伝います。」と報告、相談をして行動することができる。	該当なし
C	○リーダーとして全体の状況や作業マニュアルを確認して、グループメンバーへ指示をだして作業を進めていくことができる。	該当なし

(2) 本時の展開

学習活動	○つきたい力 ★教師の支援	◆評価
1 始めのミーティング	<p>★前回の反省を振り返り、今日の目標につなげ、目標意識を高める。</p> <p>★声の大きさ、視線、相手に伝わったかどうかの確認などの報告ポイントを提示する。</p>	
2 配膳の道具を準備してランチルーム、高ランチルームへ移動する	<p>★時間を意識しながら、配膳道具を準備できるように一覧表を掲示しておく。</p>	
3 作業準備等をする	<p>○グループに指示をだしながら準備し、整ったら指導者に報告することができる。(生徒C)</p> <p>★事前にリーダーに準備物、配置について確認する。</p> <p>★少し離れた場所から全体を見守り、生徒から何か相談等があった場合に対応していく。</p>	◆準備物が揃っている状況で指導者に報告することができたか。
4 配膳をする 高ランチルーム：A ランチルーム：B、C	<p>○分からない時や困った時は作業マニュアルを確認したり、相手に伝わる声の大きさを報告をしたりして作業をすることができる。(生徒A)</p> <p>★難しい様子がある場合、教師が「作業マニュアルを確認しよう。」「報告ポイントは。」などと声かけや助言を適宜していく。</p>	◆作業中に作業マニュアルを確認したり、相手に伝わる声の大きさを報告をしたりして、作業を進めることができたか。

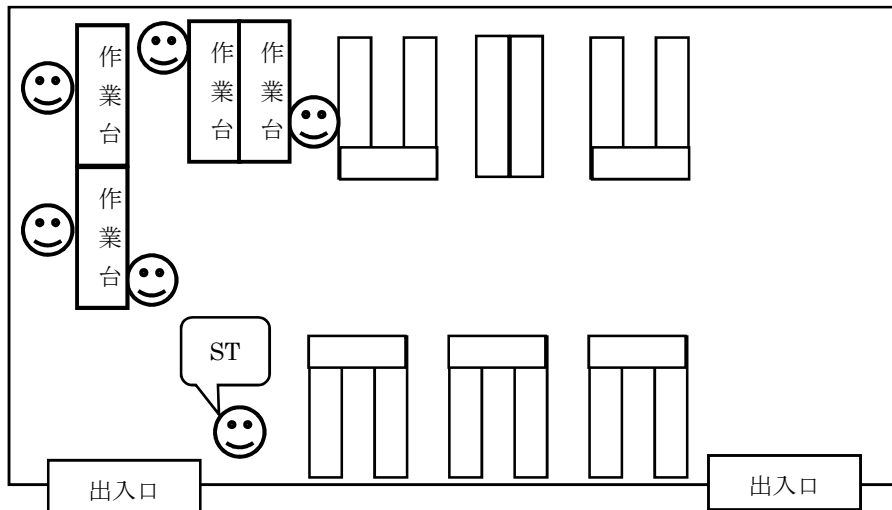
学習活動	○つきたい力 ★教師の支援	◆評 価
4 配膳をする 高ランチルーム：A ランチルーム：B、C	<p>○自分の作業が終わったら作業マニュアルや周りの状況を見て、次にすることを考え、リーダーに「○○をします。」「○○を手伝います。」と報告、相談をして行動することができる。 (生徒B)</p> <p>★離れた場所から見守り、提案できていない場合、作業マニュアルを指し示し確認するように促す。</p> <p>○リーダーとして全体の状況や作業マニュアルを確認して、グループメンバーへ指示をだして作業を進めていくことができる。(生徒C)</p> <p>★少し離れた場から様子を見守り、難しい場面の時は、場から離れて客観的に状況を見るようにしたり、助言や選択肢を伝えたりして、本人が考えて進めていけるように促していく。</p>	<p>◆作業マニュアルを見て次の作業を考え、リーダーに自分から報告、相談して行動をすることができたか。</p> <p>◆全体の状況や作業マニュアルを確認して、グループメンバーへ指示を出して作業を進めることができたか。</p>
5 配膳の片付けをして、流通室へ移動する		
6 振り返り	<p>★個別のワークシートでの振り返りを元にして、作業で良かった点、課題点などについて振り返りを一緒に行い、助言をする。</p>	
7 終わりのミーティング	<p>★グループで成果と課題について話し合い、確認する時間を設定する。また、次の配膳へ繋がる目標を作れるように教師が助言を行う。</p>	

(3) 準備

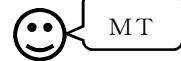
- ・白衣（上着のみ）、白衣帽子、マスク
- ・配膳グッズ一式（分担表、配置図、ビニール手袋、紙ナプキン、トイレトペーパー、コーン、チェックカード、お盆など）

(4) 場の設定

[高ランチルーム]



MT は基本的には
ランチルームだ
が、適宜行き来す
る場合あり。



[ランチルーム]

